

## 第94回総合科学技術会議議事録（案）

1．日時 平成22年12月10日（金）10:23～10:52

2．場所 総理官邸4階大会議室

## 3．出席者

議長	菅 直人	内閣総理大臣
議員	仙谷 由人	内閣官房長官
同	海江田万里	科学技術政策担当大臣
同	片山 善博	総務大臣
同	野田 佳彦	財務大臣
同	高木 義明	文部科学大臣（代理 笹木 竜三 副大臣）
同	相澤 益男	常勤（元東京工業大学学長）
同	本庶 佑	常勤（京都大学客員教授）
同	奥村 直樹	常勤（元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長）
同	白石 隆	常勤（元政策研究大学院大学教授・副学長）
同	今榮東洋子	非常勤（名古屋大学名誉教授）
同	青木 玲子	非常勤（一橋大学経済研究所教授）
同	金澤 一郎	非常勤（日本学術会議会長）
臨時議員	鹿野 道彦	農林水産大臣（代理 篠原 孝 副大臣）
同	玄葉光一郎	国家戦略担当大臣

## 4．議題

（1）平成23年度科学・技術関係予算の編成に向けて（決定・意見具申）

（2）第4期科学技術基本計画策定に向けた検討状況について（報告）

（3）その他

## 5．配布資料

資料1 - 1 平成23年度科学・技術関係予算の編成に向けて（案）の概要

- 資料 1 - 2 平成23年度科学・技術関係予算の編成に向けて（案）
- 資料 2 - 1 第 4 期科学技術基本計画策定について
- 資料 2 - 2 科学技術に関する基本政策について（答申原案）（第11回基本政策専門調査会配布版）
- 資料 3 第93回総合科学技術会議議事録（案）

## 6 . 議事

### 【海江田科学技術政策担当大臣】

それでは、総理も見えましたので、ただいまから総合科学技術会議を開会いたします。

### 【海江田科学技術政策担当大臣】

今日の議事は、お手元に議事次第をお配りしておりますが、主に2つございます。まず、最初の議題の「平成23年度の科学・技術関係予算の編成に向けて」につきまして、御説明を相澤議員よりお願い申し上げます。

### 【相澤議員】

資料 1 - 1 をごらん頂きたいと思います。

科学・技術は新成長戦略実現のための駆動力であり、科学・技術関係予算は未来への先行投資であります。科学・技術関係予算の確保が不可欠であるということを御認識頂くよう基本認識のところにまとめてございます。

総合科学技術会議は予算編成プロセスの改革を進めてまいりました。特に、新たにアクション・プランを設定し、これに基づいて実効的な府省連携を推進するなどの政策誘導を行ってきたところであります。各府省におかれては、優先度判定を活用して頂き、質の高い科学・技術関係予算の編成に向けて効果的・効率的な施策の推進とその施策による成果の提示により、投資効果を最大限に発揮することに御努力を頂くよう求めるものでございます。

以上でございます。

### 【海江田科学技術政策担当大臣】

それでは、本議題につきまして意見交換を行いたいと思います。全体の時間の限りもございませぬので、なるべく手短におっしゃって頂きたいと思います。

大臣方あるいは議員の方々からいかがでしょうか。

文科副大臣、どうぞ。

【笹木文部科学副大臣】

平成23年度の予算編成は第4期の科学技術基本計画の初年度の予算になりますから、今お話がありましたが、質の高い科学・技術関係予算編成をすることは本当に大事だと思っております。文科省としては、「元気な日本復活特別枠」で若手研究の人材育成ですとか、2大イノベーションですとか、宇宙、原子力の世界展開、こういう様なものでしっかりやっけていこうと思っておりますが、あわせて研究者にとってパフォーマンスがいい予算の使い方ができるような基金化も含めて、一生懸命働きかけをしております。取り組んでいることも御報告させて頂きました。

【海江田科学技術政策担当大臣】

では、どうぞ。

【菅議長（内閣総理大臣）】

今の基金化についてももし御意見がありましたら、聞かせておいて頂けますか。効果的だとか、いやいや、現場的にはどうかという。

【海江田科学技術政策担当大臣】

本席議員、どうぞ。

【本席議員】

研究費の基金化というのは、実は最初に出されたのは、前政権の末期の補正予算でついた先端的な大型予算でございまして、これに関して当時の科学技術政策担当大臣でいらっしゃった菅総理が基金化という方向で全体を整理して頂きました。このことはやはり研究者にとっては非常に大きなプラスであると。多くの方がこれを書いておりますし、また、本年度のいわゆるパブコメにおきましても、科研費の一部でございまして、文科省から出されている基金化に圧倒的な支持が出ておりますので、これはぜひ政府として長期的な方向としてお考え頂きたいと思っております。

【海江田科学技術政策担当大臣】

ほかに御意見は。

青木議員どうぞ。

【青木議員】

今回、この予算を評するに当たってぜひ総理にお願いしたいんですけども、これは国民全員のための科学・技術関係予算であると。特に、女性と若者を新政権設立の時代に強調されたと思うんですけども、それをぜひ確認して頂きたいと。歴史的に見ると、日本が急成長を成し遂げた明治時代とか昭和というのは、絹を支えたのも女性、トランジスターラジオを組み立てたのも女性という具合に、女性の家庭外の労働というのは非常に重要なものだと思うんですね。この日本が試練を迎えている時代にまた日本の急成長を支えるのは、女性の家庭外の労働ではないかと思います。

それから、新政権が出来た頃に数学の社会連携のシンポジウムに行ったときに、院生が手を挙げて、本当に我々の時代になったと、これから数学者として何をしたいか知りたいと発言したのを覚えております。そういう若者にも応えるような予算であるということをぜひ強調して頂きたいと思います。よろしく申し上げます。

【海江田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

ほかに発言はよろしゅうございますか。

それでは、本案を決定することとし、今もう既に総理に直接の声、お届け頂きましたけれども、改めて総理及び関係大臣に意見具申することとさせて頂きたいと思います。

ありがとうございました。

【海江田科学技術政策担当大臣】

それでは、2つ目の議題に入ります。先ほど文科副大臣からお話がありましたが、来年度は第4期科学技術基本計画に入りますので、これに関しまして相澤議員より現在までの検討状況について御説明を頂きたいと思います。

## 【相澤議員】

第4期の基本計画は、平成23年度から始まる5年計画でありまして、それに向けました答申を年内にまとめる予定でございます。この基本計画は新成長戦略を具体化する重要な位置づけになります。さらに、科学技術振興を強力に後押しする旗印でもあります。

この答申の構成は5章になっております。基本認識では、5つの国の姿、科学技術、イノベーションを一体的に展開するということを含めて、3つの基本方針を提示しております。では、グリーンイノベーション及びライフイノベーションを推進するために、環境・エネルギー、医療・介護・健康に関する研究開発、規制・制度改革、それから国際標準化活動などを推進いたします。では、グリーン、ライフイノベーション以外に国が抱える重要課題への対応でございます。3期の重点推進分野から課題対応型に転換するという大きな変更であります。さらに科学技術外交等を展開いたします。では、長期的な視野に立った基礎研究と。先ほどもございましたが、若手研究者、女性研究者等の人材育成を推進することを重点としております。

では、政策への国民参加、研究開発推進体制の抜本的なシステム改革を推進いたします。

第4期の基本計画の特徴は、先ほど申しましたように、分野重点から課題対応型への転換が1つであります。もう一つ重要なことは、産学協同体制の強化あるいはP D C Aサイクルの確立、アクション・プラン等のシステム改革を強力に推進するところでもあります。

ここで、最後の欄に本基本計画の最も重要な論点が残っております。政府研究開発投資の目標であります。ここについて明確なる提示をして頂きたいということが本日のポイントでございます。諸外国は、極めて財政状況の厳しい状況であるにもかかわらず、科学技術関係投資を強力に推進しています。一方、我が国の科学・技術関係予算は政府投資の割合が停滞ぎみになっています。今、国民は科学技術振興への政府の強いメッセージを求めています。この機会に、科学技術で世界におけるリーダーシップを発揮する絶好のチャンスではなかるうかというふうに考えます。このようなことから、厳しい財政状況ではございますが、政府研究開発投資の目標について、本計画期間中の対G D P比1%、総額約25兆円を明記して頂くことを強くお願い申し上げます。

## 【海江田科学技術政策担当大臣】

それでは、ただいまの意見につきまして、意見交換をお願いします。では、本席議員、どうぞ。

【本席議員】

民主党政権が発足して1年3カ月でございます。菅総理は、当初、科学技術政策担当大臣として科学・技術を推進するということを表明して頂きました。さらに、民主党の成長戦略の中にも、科学・技術はプラットフォームとして強力に位置づけられております。しかしながら、今日まで国民に具体的にポジティブなメッセージとしてまだ示されておられません。昨年の仕分けは明らかに逆向きのメッセージでありました。菅総理としては、この時期にぜひとも具体的に科学・技術を推進するという決意を少なくとも次の2点については明確にして頂きたいと思っております。

第1は、総合科学技術会議の改組の件であります。改組と言われて久しく、しかしながら日程も内容も示されずに放置されております。加えて、科学技術振興調整費という要の財源が最近の仕分けでは全廃という結論が出るなど、総合科学技術会議の弱体化につながる動きが出ております。ぜひ、司令塔機能としての総合科学技術会議の強化という具体的な中身と日程を明示して頂きたいと思っております。

第2点は、ただいま相澤議員から説明がありました第4期における政府研究開発投資目標、GDP比1%、もし、これが入らないとすると、自民党政権よりも民主党政権は科学・技術軽視であるという誤ったメッセージを世界中に発信することになるということを危惧いたします。ここはぜひ総理の決断を切にお願いする次第であります。

以上です。

【海江田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

奥村議員。

【奥村議員】

今回の基本計画、先ほど概要御説明ありましたが、一言で言えば、やはり新成長戦略実現のための政策であるということでもあります。これをこれまでの3期計画と比べて何が違うかといいますと、イノベーション創出が明確に入っているということでございます。そのためにはやはり投資の目標を明示する、具体的には対GDP比1%あるいは約25兆円ということは不可欠だろうと私も考えます。この投資をいかに有効に使うかという点に関して2点申し上げ

たいと思います。

1点目は、ただいま政府のほうで御検討されていると思いますが、科学技術イノベーション本部の創設、総合科学技術会議の改組であり、きちっとP D C Aサイクルを回す機能を新組織に具備するということが極めて大事です。先ほど総理のほうから研究資金の基金化のお話がありましたけれども、私も基本的には基金化したほうがいいと思いますが、そのときの条件としても、やはり研究の質を担保するためにはP D C Aサイクルを回すということが同時にないといけない話でございまして、新たな組織にはぜひともこのP D C Aサイクルを回す機能を担保して頂きたい。投資効果を上げるために、それが根源的、一番有効な点だろうと思っております。

もう一点は、イノベーション創出を担う人材についてです。アカデミアの方がおりますが、イノベーション創出は最終的には民間が担うものでございます。したがって、民間で働く若手、彼らをグローバルレベルに教育をしないといけません。御案内のように、最近、日本企業はいわゆるグローバル採用と称して日本以外から優秀な学生を採用しています。こういうことが続きますと、新成長戦略に記載されております博士の完全雇用、これは極めて難しい状態になるということを私は危惧しているわけです。したがって、イノベーション政策としては、研究開発、プラス高等教育にも投資をすると、重点投資対象にするということが極めて重要だろうと思っております。

以上でございます。

【海江田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

白石議員。

【白石議員】

この1年、東アジアでは非常に大きな変化が起こっております。それを一言で申しますと、東アジアからアジア太平洋の時代に振り子がもう一遍振り戻しているということだろうと思っておりますけれども、常々、私はこのアジアの韓国であるとかあるいは東南アジアの国々を訪れるたびに痛感しますことは、その中で日本に対する期待が実は高まっているということなんです。やはりこの地域の安定と繁栄を維持するためには、日本が頑張ってもらいたい。日本と一緒に連携してやりたいという意識が非常にはっきり出てきております。その中で、やはり日本がこれ

から科学・技術、イノベーションの国として先頭に立っていくんだと。そのためには、やはりそこに重点投資するし、そのためのもっと強力な権限を持った戦略本部を作るんだと、そういう意思をぜひ一刻も早く総理から出して頂きたいというふうに思います。

【海江田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

では、財務大臣、先に。

【野田財務大臣】

科学・技術の重要性については、これはもう言うまでもないことだと思いますし、これまでも政府としてはそういう配慮をしてきたつもりで、先般成立した補正予算でも科学・技術関連費で1,700億円余りございます。この姿勢は変わらないということでありましてけれども、今後重要となるのは、さっきP D C Aのお話もございましたが、単なる投資というインプットだけではなくて、何を、いつまで、いかに効率的に実施したかというアウトプットを検証する、この視点はぜひ欠かせないでいかなければいけないというふうに思います。

あとは、この2ページ目の研究開発投資の問題でありますけれども、確かに新成長戦略で官民挙げて対G D P比4%以上、これはやはり全力で取り組むという認識は持たなければいけないと思います。ただし、その上で、やはり厳しい財政状況の中で、財政運営戦略というのは、これは科学・技術だけではなくて、あらゆる分野がこの制約の中でこれからのあり方を検討すると。そこはぜひテイクノートして頂かなければいけないということで、この厳しい経済と財政状況の中で対G D P比1%と明記することについては、具体的な規模を出すことについては、私は躊躇せざるを得ないところがあります。ただし、それが外へのメッセージを含めて高い志を示さなければいけないということならば、それはちょっと書きぶりを工夫するような詰めをさせて頂ければなというふうに思っていますので、今申し上げたような色々な視点を含みながらの書きぶりを工夫することを引き続きやらせて頂ければと思います。

【海江田科学技術政策担当大臣】

では、文科副大臣。

【笹木文部科学副大臣】

財務大臣のおっしゃることは、財務の責任者としてはよくわかるんですが、しかし本当に今、私にとっても耳の痛い御発言を頂きました。率直なところですが、政権交代して、色々外への伝え方は工夫しています。しかし、ぜひ予算、補正と本予算、色々工夫していますが、実態を見て頂ければ、今言われたように、政権交代になって科学・技術関係予算がどうなんだと。むしろ停滞どころか、と言われかねない状況になっている。これは間違いのないことですので、ぜひそこは精査をして頂いて、必ずこの1%、5年間で25兆円の投資を書き込みたいと思います。もちろん、PDCAも、効率化というのは必要ですが、このメッセージは外に発しないと、言われているとおり、懸念どおりになる可能性が高いということです。

あと、科学技術外交、これも東アジア共同体を言うなら、政治的に難しいところに対してソフトパワーで、科学・技術で外交に入っていくと。その中で日本だけが非常に力を入れていないということで、どう入っていけるのかと。やっていけるのか。そのぐらい危機的な状況だと私は思っていますので、ぜひお願いをしたいと思います。

【海江田科学技術政策担当大臣】

では、玄葉大臣。

【玄葉国家戦略担当大臣】

全くある意味次元が違うことをあえて申し上げたいのですけれども、科学・技術の重要性と必要性については先生方と全く同じ思いです。昨日も、ある大学の前の総長さんがいらっしゃったときにも申し上げたのですが、医療のほうだって、医師不足を始め、さまざまな歳出増が必要だというのは、これまた同じようにわかるわけですね。そのときに、やはり先生方のようないわゆる誰が見ても立派だという方が、財源のことも併せてこれから一緒に言っていくということをしないと、私は別に財務大臣の立場に立って言うわけではないのですが、今やはり社会保障、自然増がどんどん増えていきます。そういう中で、それぞれ非常に理のある主張がそれぞれの立場からなされます。今、予算と税に私も23年度予算編成過程で関係していますけれども、やはり税制の抜本改革はやらなければいけないということと同時に世の中に向けてもおっしゃっていただかないと、率直に言って、先生方のご意見は全くそのとおりだなと思いつながら、一方で説得力を感じないというのは、やはりそれを実は感じている人が多いからだとい

うふうに思います。本当に生意気ですが、これはやはり日本の社会を遠望して、しっかりと将来を見つめて、そのことも含めて、先生方のような方々におっしゃっていただくということが私は大切なことだと思いますので、一言付言させていただきます。

【海江田科学技術政策担当大臣】

では、本席議員、もう一度。

【本席議員】

簡単に申し上げますけれども、私は財源論を抜きにこれはできないと思います。ただ、我が国の財政を圧迫しているのは、社会保障の自然増を認めると、こういうことを最初に言われたことでもあります。これは言うべきでなかったと私ははっきり申し上げます。社会保障は、お金を使うだけでなく、いかにして患者もハッピーになり、医師もハッピーになり、保険者もハッピーになるのか、その明確な妥協点をもっと国民全体で議論して出していかなければいけない。今は明らかに無駄な、医療費に関しても様々な過剰なものが入っています。あの自然増を認めるということは、私は率直に申し上げまして本予算編成における最大の失敗であったと。

【海江田科学技術政策担当大臣】

予算はまだ編成過程でございますので。

いかがでしょう。かなり率直な意見がそれぞれ交わされたと思いますが。

では、青木議員、もう一度。

【青木議員】

今、本席議員が社会保障費のことをおっしゃったのでまた指摘させて頂くと、平成20年の社会保障費は99兆円で、年金が49兆円だったんですね。それで、第4期には5年間で25兆円を使うコミットメントを提案しているのは、特に若者と、あとさっき白石先生の指摘のあった国外へのメッセージという意味でも、非常に意義があるのではないかと思います。

【海江田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。そろそろ時間も迫っておりますので。

今、本当に双方から率直な意見が交わされたと思います。こうした率直な意見を踏まえつつ、

これから年末の答申に向け、議員の先生方にはさらなるご尽力をお願いする次第でございますが、どうぞ年末の答申、立派なものができますようお願いを申し上げますとともに、また議論をさらに深めていきたいと思っております。

お手元に前回の議事録を資料として配付してございます。

ただいまから菅総理からの発言がございまして、その前にプレスを入れますので、しばしお待ちください。

(報道関係者入室)

【海江田科学技術政策担当大臣】

それでは、最後に菅総理から御発言頂きたいと思っております。

【菅議長（内閣総理大臣）】

総合科学技術会議としての御議論を頂きまして、ありがとうございます。

私も最近、常に2つのことを考えています。1つは、やはり財政を含めて日本全体をどうやっていこうかということと、もう一つは、自分がやりたいことをもっとやっつけてしまおうかということと、そんなことを常に2つ考えています。

昨日も「はやぶさ」の責任者であった川口さんがおいで頂いて、あのすばらしい成果を色々と説明頂きました。また、毛利さんともちょっと電話で話をいたしまして、素材の話も色々いたしました。そういった意味では、日本が世界に向かってまさに成長し、元気を取り戻していくには、科学・技術の分野だと、そのように思っております。

先ほど白石議員からも、日本に対する期待感は最近逆に高まっているという御指摘がありましたけれども、私もそう感じております。先日もボリビアの大統領、これはいわゆる先住民出身の大統領でありましたが、あそこは世界のリチウムの半分ぐらいが埋蔵されていますが、どの国ともまだ契約は一切結んでいないと。つまり、歴史的に自分たちはどんどん搾取されてきたと。自分たちはそのリチウムを付加価値をつけて世界に提供したいんだということを言われましたので、「それじゃ早速、日本にはリチウム電池の有力なメーカーがたくさんあるわけですから、そういう皆さんを連れてミッションを出しましょうか」と言ったら、「ぜひ来てくれ」と。「菅さん、あなたにはアドバイザーになってくれ」とまで言われまして、大変嬉しかったんですが。やはり多くの国が日本のような国になりたいということを強く思っておられる

ことを最近ひしひしと感じております。

そういった意味で、多少これからは私もわがままを言わせてもらって、好きなところにはたくさん予算をつけようと、簡単に言えば、こういうように考えることにいたしました。そういった中で、今日はこの科学・技術関係予算全体については、民間と官民合わせてGDP 4%、さらに政府としては1%という要請を皆さんから強く頂いておりますが、そういったことも念頭に置いて、しっかりと最終的な取りまとめをお願いしたいと思っております。

また、この総合科学技術会議のもっと戦略的な位置づけについて、これは余り愚痴を私のような立場で言うのは適切ではないかもしれませんが、今、内閣の制度の中で、例えば私が本部長とか議長をやっているのが20ぐらいあるんですね。そして、この部分は海江田大臣、この部分は何とか大臣となっていて、かつての行政改革という名の中で大臣の数が非常に絞られていて、色々なものをこの内閣府というところに持ってきているものですから、率直に申し上げて、皆さんも感じておられると思うんですが、動きを迅速にさせることが非常に難しい状況になっております。

しかし、私も、御指摘がありましたように、鳩山内閣以来、この責任者を務めたり、今はこういう立場でありますので、海江田大臣ともう一度、近々相談をして、どういう形で、どういう日程で、戦略的なこの会議をより強力なものにしていくことができるか、やっとな私も国会日程が少し空きましたので、早速取り組んでいきたいと、こう思っております。

いずれにしても、そういう意味では、資源のない日本がここまで世界に伍してやってこられたのは、人材であり科学・技術だと思っておりますので、そういう姿勢で私もさらに取り組みたいと思っておりますので、皆さん方のまた大きな知恵も大いにお貸しを頂きたいということをお願いして、あいさつとさせていただきます。

どうか今後ともよろしく申し上げます。

(報道関係者退室)

【海江田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

以上で会議を終了いたします。

なお、前回の議事録と本日の資料は公表いたします。

どうもありがとうございました。